栃木県勤労者山岳連盟４０周年記念　Mt.クック編２０１６年2月１２日～１４日

Ｍｔ　Ｃｏｏｋ　Ｔｒｅｋｋｉｎｇ　Ｒｅｐｏｒｔ

本編はＭｉｌｆｏｒｄ　Ｔｒａｃｋの続編です

２月１２日　朝７時３５分の長距離専用グレートサイトバスでQueenstownからMt.Cookに向かう。途中２回のトイレタイムを挟みながら１２時３０分にクック村のユースホステル（ＹＨ）前に停車。事前に知らせておくと、ホテル前で降ろしてくれる。バス車掌は日本人だった、専用のイヤホンと受信機で日本語による観光案内が聞ける、他の人たちは運転手が案内業務を担当（英語版）している。器用なもんだ!日本では安全運転上考えられない。途中にバンジージャンプ発祥地という場所に立ち寄ったり、トイレタイムはフルーツ専門の直売所で済ます。でも、バス客が集中した為トイレ数が少なかった。ホテル到着後、部屋に荷物をおいて身支度する。昼食をとるためにハミティジホテルへ。食料はこのホテルかＹＨで買い求めるしかないのだ。レストランもハミティジホテル２階を利用するしかない。

Mrs JonesFruits shop

エベレスト世界発登頂エドモントン・ヒラリー卿像

全部屋 Mt クックが眺望のハーミティジホテル

アオラキ/Mt.クック国立公園は200万年前から隆起と侵食の繰り返しによってつくられた一群の山がサザン・アルプスである。タスマン氷河が有名だが氷河がたくさん存在している。ニュージーランドの最高峰Mt.クックは3754mと富士山より20m程低いが万年雪に覆われている。緯度の高さによるもので、真夏でも気温は３０度以下、訪れた２月は２７－８度と３０度を越えることはなかったです。
マオリ名でこの最高峰を「アオラキ」と呼んでいるが、意味は「雲を突き抜ける山」の意味である。
最高峰の山容を眺めながら３日間トレッキングすることにしました。ハミティジホテル１階には、エベレスト最初に登頂したエドモントン・ヒラリー卿の山岳博物館とホテル前には銅像がある。彼はこのMt.クックで登山技術を磨いたとある。トレッキングコースは、６コース整備されており、他にMt.クックの裏側に回りこむタスマン・ヴァレーに３コースある。今回は前者６コースのうち４コース歩いたので紹介する。

【Ｍｔ.クック初日１２日（金）晴：フッカー氷河湖トレッキング】

Mt.Cook で遭難死した慰霊碑の前で

二つの吊り橋を渡る

昼食を済ましてからなので３時を過ぎたが、フッカー氷河湖まで訪れることにした。ホテル前が標高７６０ｍ　フッカー氷河湖は８５０ｍ、歩程時間も往復４時間とあるので手軽なコースだ。そのとおりホテルには８時までには帰ってきた。夜９時までは明るい。高山植物は”　Mt.クックリリー”が有名だが、11月ごろ咲き始めるので今はお仕舞い。とにかく日差しが強い。Mt.クックより左手に見えるミューラー氷河の姿を楽しみながらフラットな道を歩く。キャンプ場から歩き始めて１５分ぐらいで第１の釣り橋を通過。道は氷河が削り取ってできた土砂の上を歩くので砂埃が立つ。更に１５分ほどで第２の釣り橋が見えてきた。するとMt.クックの山容が目の前にデーンと飛び込んでくる。更に歩

いていくと避難小屋と緑色したトイレを右に見て、３０分程で終着点のフッカー氷河湖に着いた。風が強いので肌寒い、おーっ！　勇気ある人いるね。数人が氷河湖で泳いでいる。冷たいのだろう、すぐにあがってきた。帰路は休憩などあまり取らずに一気にキャンプ場まで戻ってきた。ミルフォードと比較すると、Mt.クックは天気にも恵まれることが多いと聞いたが本当だ。11月12月のレポートを読むと、Mt.クックの山容を拝めなくて残念だったという話を聞く。夕食はキッチンでワイワイと日本から持参したラーメンに焼きソバ、最初にコーラで乾杯。デザートはフルーツオレンジにバニラアイスで満腹。翌朝はメインのセアリーターンとケアポイントに出かけることにした。

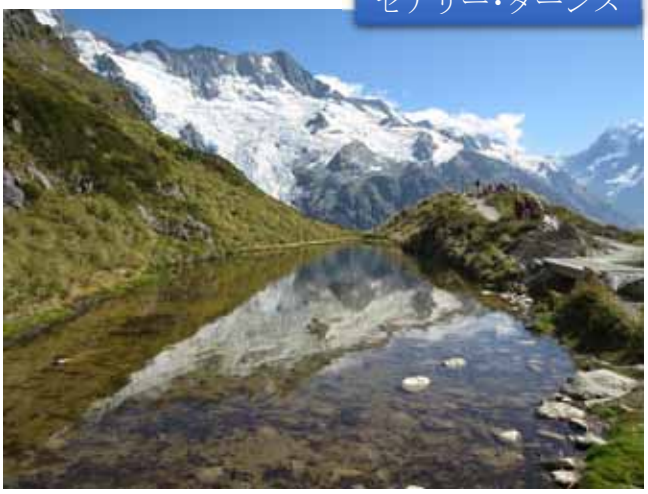
Mt.Cook を背にフッカー氷河湖

水が白っぽいのは氷河が削り取った鉱物資源が溶け込んでいるため

【Ｍｔクック２日目１３日（土曜）快晴：セアリー・ターンズ・トラック/ケア・ポイント】

７時半頃から朝食つくり、トーストにチーズとソーセージを挟んだ簡単なもの。９時にホテルを出発。ハミティジホテル通過９時２０分、セアリー・ターンズ登山口１０時到着。昨日のフッカー氷河湖は平坦な道で、人気が高く訪れる人も多いが、セアリー・ターンズは氷河が削った切り立った岩壁をひたすら上り続けるコースなので、人々は断然少ない。*※ターンは山中にある小さい湖のことをいう。*

セアリー・ターンズ



Mt.Cook をバックにエーイ!

山歩き愛好者にはお勧めだ。しかし、急斜面の登山道はほとんどが階段状になっていて次は九十九折（つづら）となっていて息が荒くなる。でも、目の前にはMt.セフトンの山肌に垂れ下がるような懸垂

氷河の姿が迫ってくる。そして眼下に広がるミューラー氷河湖などのパノラマは絶景で、休憩を挟みながら登り続ける、この階段がとても急なので足やひざに負荷がかかる。でもこのコースに来る人はさすが健脚ぞろいで、私達を抜いていく。ホテルの標高が 760m でセアリー・ターンの標高が 1320mということなので標高差 560m を上り下りすることになる。セアリー・ターンには１１時半に到着。パノラマを十分に堪能して下山。まだ、お昼過ぎたばかりなので、欲張ってケア・ポイントに向かうことにする。下りは早い、１時半にケア・ポイントに到着。ここで昼食にする。そしてＤＯＣキャンプ場に寄ってトイレを済ませ冷たい水で顔を洗うと気持ちのいいこと。キャンプ場を離れた後は全く水飲み場もなく、日影がないコースなので、晴れている日は水と日焼け止めを持参しないといけない。セアリー・ターンはキャンプ場からは通常３時間半ほど、マウントクック村からだと５時間ほどの時間で往復可能だ。

ミューラー氷河湖とモレーン

ケア・ポイントは誰もが歩けて、しかも景色もそこそこに味わえるコースである。Mt.クックの山容を見ながら歩けるのがいい。ミューラー氷河から流れ出したモレーン（堆積物）が流れ込む小さな湖を見下ろせる展望台が終着点だ。切り立った山肌から吊り下がる懸垂氷河の姿を眼前に見ることができるのが魅力だ。展望台からは Mt.セフトン、フットスツール、ミュラー氷河湖、フッカーバレー、Mt.クックが見られる。説明によると、１９１３年に氷河から流れ出た水が洪水となって、当時のハミティジホテル（キャンプ場隣）があった場所まで達し、ホテルは倒壊してしまったが、このコースはその時に形成されたとある。

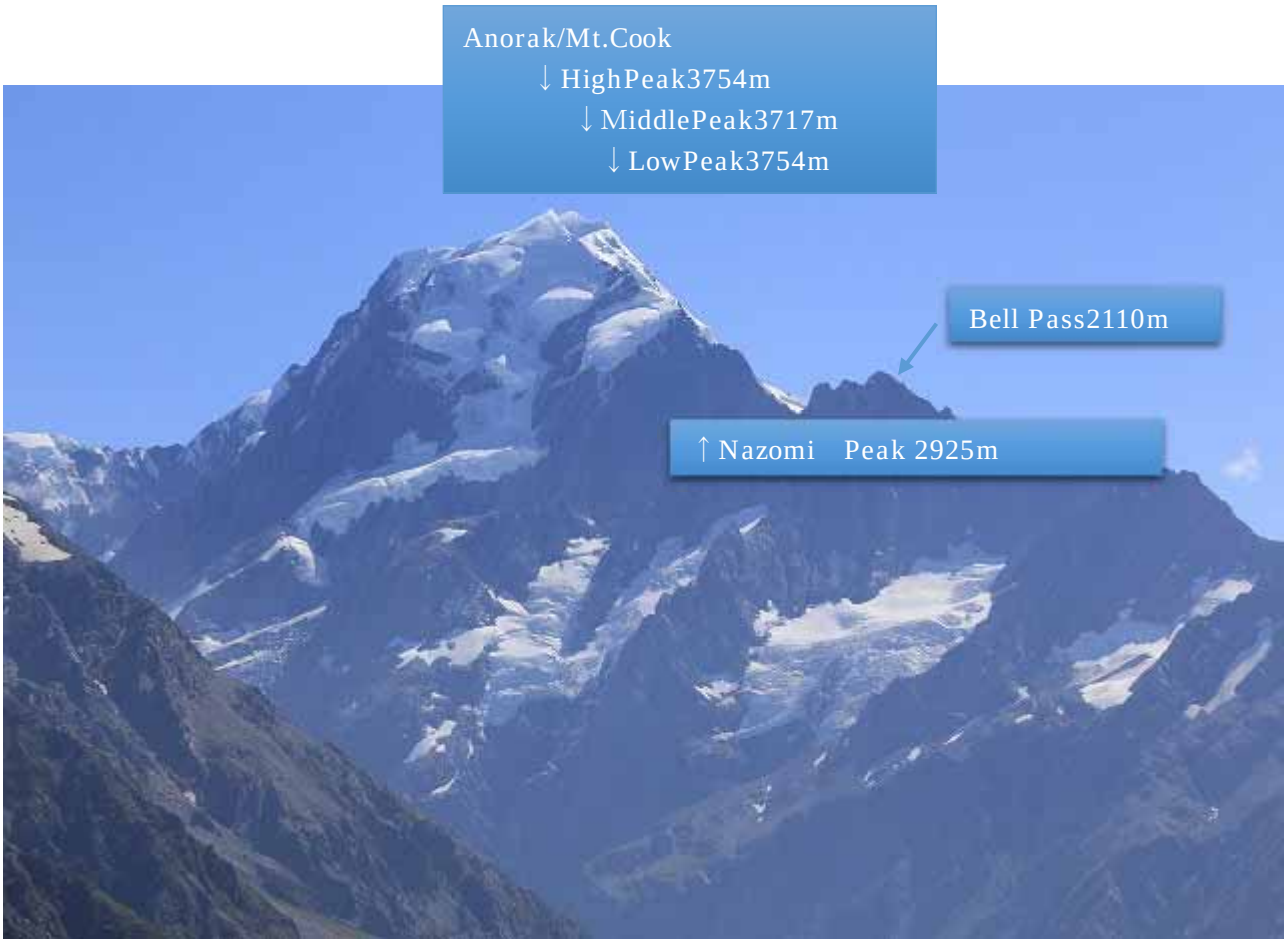
【Ｍｔクック３日目１４日（日）快晴：レッド・ターンズ/ガバナーズ・ブッシュ】

Mt.クックにやって来る人の多くはハイキングが目的です。ハイキング以外にもちろん遊覧飛行や氷河湖ボートツアーなども楽しめる。ハイキングの中で最も人気があるのがフッカバレー、その次がケア・ポイントかもしれない。もう少し歩き甲斐のある山道を登りたい人に向いているのが、レッド・ターンとガバナーズ・ブッシュだ。どちらも Mt クック村内にある公共避難所（トイレ、水補給ができる避難ロッジ）が出発点となっている。７時から朝食つくり、サンドイッチとアイスクリームを食べてから８時に出発。ホテルから直接ブラックバーチ川方向へ歩く、橋を渡ったらレッド・ターンズまで急勾配の道を登っていく。レッド・ターンへの道順は最初 Mt.クックを背にして歩き始めるので余り人気があるコースとは言えず、登山客は少ない。逆に穴場です。また標高差 400m ぐらいをずっと登り続ける。急斜面がずっと続くハードコースだ。といっても登山ではなくハイキングなのでちょっと体力があれば大丈夫だと思う。でも我がパーティは、（もう目の前なのに）途中から「もう降りましょう」といって山頂を踏まないで下山してしまった。山頂の小さな沼（赤色）には到達しなかったものの、途中、眼下に Mt.クックの村が見下ろせたり、Mt.クックが眺められたので十分だ。高原植物も多いコースだ。レッド・ターンズの帰途にもう一つガバナーズ・ブッシュ・ウオークに行くことにした。ブラックバーチ川に沿って登っていくと、銀ブナ（鮒ではなく橅）の森を散策する楽しい散策路で、鳥に会えたり対岸のレッド・ターンズを見渡すことができる、お気楽なコース。樹木に名前のタグが付けてあるので、植物が好きな人にはもってこいのウオークだが、銀ぶなのことは Silver beech とあるので、そこから銀ぶなを特定するのは難しいかもしれない。

レッド・ターンズのイメージ
ＮＺ環境省ＨＰより転載

懸垂氷河　時おり轟音と雪煙を立てて崩れる

昨日一緒だった韓国のお嬢さんにまた再会、彼女は一人でどこにでも出かけている、韓国の女性は強いな。昨日もミュラーハット（小屋）まで行ってくると話していた。こうして３日間を快晴の中ハイキング三昧で過ごせた楽しいＮＺのトレッキングは無事終了した。



実は写真をフリップ付きで掲載したのは、Mt.Cook の西南稜に Nazomi Peak があるからです。知人からこのピークは日本語のノゾミから来ていることを知らされました。知人はキャロライン小屋でなんとなくめくっていた本（登頂記録）に出ていたので存在を知ったとのことでした。ノゾミとは日本語で Hope の意味ではないかと。Mt.Cook に女性初登攀したのはオーストラリア生まれの Freda Du Faurs でした。Mt.Cook 登頂百年祭の特集記事に彼女の登頂記が掲載されていましたが、どうして Nazomi と命名されたのはわからないです。Freda Du Faurs の登頂記がサイトに掲載されているので、読めば謎が解けるかもしれません。

http://www.summitpost.org/finding-freda-du-faur/188031　155 ページ

https://en.wikisource.org/wiki/The_Conquest_of_Mount_Cook **CHAPTER XVIII**